

研究実施のお知らせ

2025 年 7 月 7 日 ver.1.1

研究課題名

島根大学病院における腸管エコーの診療状況

研究の対象となる方

島根大学医学部附属病院で 2003 年 4 月から 2024 年 8 月までに腸管エコーを受けられた方

研究の目的・意義

腸管エコーとは体外式超音波装置(エコー)を使用して消化管(食道・胃・小腸・大腸・直腸)を描出する検査です。消化管の壁は非常に薄いため従来のエコーでは観察が困難とされてきましたが、近年のエコー機器の解像度上昇に伴って、消化管は観察可能な臓器となってきました。また、レントゲンや CT 検査などの他の画像検査と異なって、被爆などのリスクが極めて少ない点やリアルタイムに消化管の動きを観察できる点、痛いところに何があるかを直接観察できる点、など利点が多い検査です。内視鏡検査と比べても非常にリスクが少ないため、近年、潰瘍性大腸炎や便秘などの消化管の病気の評価に使用されつつあります。問題点としては、検査者の熟練度による影響が大きく、特に消化管の観察には知識とトレーニングが必要であるため、2024 年度から本邦でも講習会が開催されるようになっていきます。一方、当院では以前(2003 年頃)から腸管エコーを実施可能な検査者が在籍しており、症例数が豊富です。希少な経験症例を公開することは極めて重要なことであると考え、当院の腸管エコー症例を集計し解析する本研究に至りました。

研究の方法

診療録から収集した、当院で 2003 年 4 月から 2024 年 8 月までに腸管エコーを受けられた方を対象とします。診療録から収集するデータは、対象者の背景(年齢、性別、併存疾患、常用薬など)や診断方法(レントゲンや CT、内視鏡、血液検査など)、バイタルサイン、身体所見、超音波検査所見、血液検査値、治療法、最終診断、治療経過を予定しています。

収集したデータは、島根大学医学部内科学講座(内科学第二)内の外部から容易にアクセスできない PC に保管いたします。PC にはセキュリティを設定し、パスワードで利用可能な研究者を制限します。研究対象者の識別は研究用の識別番号により行い、その研究対象者リストは収集データとは別に、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管いたします。外部への持ち出しは行いません。研究に関するデータ及び関連資料は研究の最終公表後 10 年間保管し、その後個人の識別ができない状態で廃棄(消去)いたします。

研究の期間

2024 年 9 月 26 日～2028 年 8 月

研究組織

この研究は島根大学医学部内科学講座(内科学第二)が行います。

研究責任者(研究で利用する情報の管理責任者):
島根大学医学部内科学講座(内科学第二) 岡 明彦

情報の利用停止

利用停止の申し出を 2025 年 3 月までとしていましたが、既に解析を行っているためお申し出を受けることができません。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者:

島根大学医学部内科学講座(内科学第二) 岡 明彦(おか あきひこ)

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2190